

令和3年度 高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第3回） 概要メモ

日時：令和4年2月10日（木）10:00～12:00

場所：高知会館3階 平安（高知市本町5丁目6-42）

出席者：＜委員＞

宮田委員長、小林委員（リモート）、都築委員、川鍋委員、西田委員、吉澤委員

＜事務局＞

＜議題＞

- (1) 事業の進捗について
- (2) ビジョン改定案（最終版）について
- (3) 令和4年度の取り組みについて

＜意見交換＞

委員長	令和3年度の事業の進捗の状況についてご説明いただいた。 コロナの影響で、色々制約のある中での活動だが、これらの状況について、委員の皆様から意見を伺いたいと思う。
委員	p3のとさぶしについて、今後の取組の方向性に、「ターゲット層20代から30代のアプローチが十分でない」と書かれているが、私もとさぶしは本当に良い雑誌だと思っており、実際、ホームページでも非常に良い形で出ていると思う。しかし、そこにたどり着くまでが恐らく大変で、若い方々にどのように知らせるのかというところが肝になってくると思うが、この辺りどうか。今、Facebookは活用していると思うが、実は若い方はFacebookをあまり利用せず、どちらかと言うと企業のものみたいなイメージになっている。その辺りどのようにに考えているのか。 これは、色々な所で肝になってくると思うので、ぜひ聞かせていただきたい。
事務局	ホームページやSNSもあるが、これまでその更新が十分にできていないということもあり、目標数値にTwitterの更新を2週間に1回程度にするということを今後盛り込む予定。今年はこれまでより少し多めにTwitterの更新をしてもらっているが、それほど急激には伸びていないため、編集会議に20代の女性の方にも入ってもらい、意見をいただきたいと考えている。

	何かこうすれば、というアドバイスはあるか。
委員	<p>インスタグラムは何か考えているか。やはり写真が綺麗だと思うし、目に留まる。Twitter もそうだが、Twitter はどちらかというところだと思う。</p> <p>画像の良さというところが、とさぶしの良さであり、高知の良さでもあると思うので、そういうこともぜひ検討してほしい。</p> <p>また、前回の評価委員会の意見にもあったが、更新がされてないと思わないと思う。</p> <p>更新回数を一つの目標数値のように置かれると、嫌々する形にならないか。そうではなく、若い方が楽しく、どんどん更新しようというような形になるといいと思う。</p>
事務局	インスタは活用していないが、ぜひ参考にさせてもらう。
委員	<p>このコロナ禍で大変な中、全体的に見て高知県はとても頑張っているという印象は受けている。コロナ禍だが、できることをやっているのはさすがだと思った。</p> <p>私もとさぶしを愛読している。とさぶしは色々な人をターゲットに配付しており、読んでもらうことも重要だが、これまでのとさぶしをまとめていくという方向性もあればいいのではないかと思う。</p> <p>とさぶしで扱われている内容は、一過性の消費的に使われるようなものではない部分があるように思う。高知県の文化を知っていくうえで、とても重要な動向などの取材をした内容もある。LINE 登録をしていると通知が来るが、一定程度まとまった段階で形にしておく方がアクセスしやすいと思う。</p> <p>いずれにせよ、一過性の消費で終わらせてしまうのは勿体ない内容だと思うので、過去のものも含めて、少し活用することを考えられたらどうか。</p> <p>話が変わるが、個人的には高知国際版画トリエンナーレ展に関しては企画に力が入っておりとても嬉しく思う。私は今、文化庁の文化審議会の文化財分科会の委員をしており、その中で優れた文化財を保存修復していく際の原材料の加工について、技術を持っている人達を、きちんと後継者育成していくことが重要であり、そもそも原材料がなくなっている危機感が相当にあるという話を聞いた。そのうちの一つが、高知県で作っている和紙の関係だったと思う。</p>

	<p>そういったものを保存していくために、原材料などを確保していかないと、そもそも文化財の保存など将来にわたって継承していくことが出来ないことが問題になっている。</p> <p>表には見えないが、文化芸術や文化財を保存修復・継承していくために必要なことが何であるのか、将来的に考えていったらいいのではないかと思う。</p> <p>和紙を使ってほしい思いもあり、トリエンナーレ展のような展覧会は良いと思う。しかし、それだけでは和紙が廃れていくかもしれないため、サプライチェーン的な部分まで視野に入れた、継承の仕組みを視野に入れたら良いのではないか。</p>
事務局	<p>とさぶしについて、すぐには難しいが、事務局の中で考えていきたいと思う。</p> <p>土佐和紙については、後継者の育成や、前回の会議で「消費されないと残っていかないのではないか」という話もあり、担当課に聞いたところ、実際に土佐和紙や土佐打刃物や土佐硯などに関わってくれようとしている研修生同士の交流会を開催した際に、例えば、「土佐和紙と打刃物をコラボさせた商品ができないか」といった、交流が生まれているとのことだった。今後も情報収集していきたいと考えている。</p>
委員	<p>コウゾやミツマタなど原材料についてはあまり把握していないか。</p>
事務局	<p>工業振興課から聞き取りした分だが、紙産業技術センターでノウハウや設備を活用した技術の支援を行い、産業振興センターで試作の開発や、機器の整備に要する経費への補助、製品企画書の策定支援などを通じて、事業者の取組を支援をしていくという支援を行っている。ただ、原材料の具体的なことについては細かく把握していない。</p>
事務局	<p>原材料についての取組だが、文化庁でも非常に課題意識を持ち、原材料の生産をするための立ち上げ事業がある。高知県内でも、いの町の吾北地区などで実施しており、他の原材料のムラサキについては土佐清水市で実施をしている。</p> <p>いずれも元々、休耕期間中の現金収入を得るために農家で栽培されているもの。高齢化していることもあり、新たにコウゾを作っていたく方がいないと続いていかない。技術伝承をしていかないと良い材料ができないため、そこを含めて取り組んでいただくということで実</p>

	<p>施している。</p>
委員	<p>日本製紙という大手の製紙会社があり、「天使の羽衣」というティッシュペーパーを贈答用に作っているが、その原材料がいの町から来ている。</p> <p>そういう大手企業との色々な形でのタイアップなどを考えてもいいのではないかと思う。</p>
委員	<p>とさぶしの関連でいうと、以前の広報誌(とさのかぜ)で、「勝手に重要文化財」というシリーズがあり、なかなか面白かった。ああいう視点のキャプションが欲しいと思った。</p> <p>それと県史編さん事業が始まったが、シンポジウムにおいて特に面白かったのは、県出身の若手研究者や学芸員のリレートーク。ああいう方々がまた担ってくれると、壮大な計画に対する準備が着実にできているなど思う。</p> <p>その中で馬の博物館の学芸員さんが、「学芸員の仕事は調査研究、それを連日発表するということもあるが、調査研究の過程で見つけた面白いことなどを、かみ砕いて皆さんに知ってもらおうという取り組みが必要だ」ということをおっしゃっていた。</p> <p>きちんとした取り組みはされていると思うが、少し息抜きや、面白いものを見つけたら皆に知ってもらおう工夫をしていくことが大切だと感じた。自由民権で言えば、民権思想の普及には民権数え歌を歌って踊ってを繰り返しているうちに、自由民権運動についての理解が深まったということもあるので、少し視点を変えるなど、皆に知ってもらおう工夫をとりながら取り組んでいただきたいと思う。</p>
事務局	<p>以前の「勝手に重要文化財」は私も楽しんで拝見していたが、その時の編集に関わってくださっていた方が、現在も編集委員にいらっしゃるので、編集委員会で共有させていただく。</p> <p>また若手のリレートークに出てくださいました馬の博物館の方は、私共も非常に感銘を受け、何名かの方にはぜひ県史に関わってくださいと事務局からオファーをしていると聞いている。いただいたご意見について、県史編さんの方たちと共有させていただく。</p>
委員	<p>県立の文化施設について、コロナ禍で入館者数が増えず、色々な取</p>

	<p>組ができなくなり大変だったと思うが、私共の香美市立美術館のような地方の文化施設では、県立施設がオープンしていることが一つの方向性となる。県立施設が開館していれば地方の文化施設も開ける、県立が閉めたら、地方も閉めるということになる。そういう点で入館者は減るが、県立施設が開館してくれることは非常にありがたい。特に、文学館がコロナ禍で非常に努力し、独自の取組をされていることに感心している。</p> <p>また、県の芸術祭に参加するのに、県東部や県西部、中心部高知市内から離れた地域においては、コロナに対する受け止め方が全く違い、1人でも感染者が出ると、開催ができなくなるようなイベントもある。</p> <p>その辺もやはり一律には難しいと思うが、高知県は非常に東西が長く県域が広いので、状況は違うが、何とかこの文化の火を消さないようにという思いで見ている。</p>
<p>～ビジョン改定案（最終版）について～</p>	
<p>委員</p>	<p>アーツカウンシルについてパブリックコメントなどを書いた人という話をした。非常に良い取組として始まり、始まった時は、芸術やアートにあまり関係のない部局の市町村の方々も集まっていると取組を行っていたが、最近、当該関係者やコアな人だけでやっている印象がある。広がりがないのではないかという意見もあったがどうか。</p> <p>アーツカウンシルとしての広がりを作っていく仕掛けのようなことは、現在どうなっているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>アーツカウンシルという制度は素晴らしいと思っているが、現在それが十分に機能しているわけではないという認識を持っている。具体的には、文化財団の中に専任職員が1人いる形だが、その方だけにやってもらうのは難しいと考えており、もう少しいろいろな人に関わってもらえる仕組みを考えていきたいと思っている。是非その仕組みを考える際にアドバイスをいただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>前段の議題1にもあったが、「SNSなどを使つての発信」のところで、2つ考えることがある。</p> <p>1つ目は、コロナ情勢の中で、令和3年度について、高校生などは非常に大きな影響を受けて気の毒な状況にあると思うこと。大人は、私たちが行っているような事業や、音楽祭などについて、また来年で</p>

きたらいいというところがあるが、高校生などはその年しかない。一生に一度のそういう機会をいろいろ奪われており、令和4年度もどうなるのかが分からない。そういうことをもっと高校生たちが発信できていくプラットフォームのようなものを、SNSを活用して作れないかと思っている。例えば動画などを配信するのはもちろんだが、高校生たちが一番使っているツールは、先程もあったInstagramであったり、動画だと、ユーチューブで作るのは大変なので、ティックトックがよいのではないか。

そういうものが非常に使われており、女性はInstagram、男性はツイッターを使ってる人が多い。アクセス数を増やすのもいいが、そういった仕組みを楽しみながら作れる若いスタッフを使ったらどうかと思っている。

最近、私の会社でもInstagramや、ツイッターなど若い20代の職員がやってくれているが、会社からはほとんど何もしておらず、彼女たちが勝手に楽しんで行っているということが非常に良いと思う。私たちが驚くようなことをいろいろとやってくれており、それを楽しんでやってくれる若い世代にいろいろなことを発信してもらえるような仕組みが、そろそろ必要ではないかと思う。それが高校生たちの何らかの情報発信ツールとして非常に重要なことの1つだと考える。

2つ目は、例えば文化行事や歴史的な行事などがある。この間バスが無料だったので、池川まで行き、偶然、池川神楽を堪能して帰って来たが、そういった告知が、わざわざホームページを調べないと分からないというのはもったいないと思う。人もあまり来ていなかった。そういうことをSNSを使った告知など、しっかりやっていく時期に来ているのではないかと思う。「アクセス数や更新回数を増やしましょう」ではなく、その先の登録者を増やす仕組みや、楽しんで取り組めるような仕組みができるのではないかと思った。

事務局

高等学校文化連盟にも今回、ビジョンの意見をいただいているので、高校生を巻き込んだ取組みについて、事務局の方とも話をしていく。

また、文化教室など地域での取組みの情報発信について、どのように知ってもらったらいいのかということは考えていきたい。来年、文化財団が行っているホームページを改修する予定だが、現時点で団体に情報発信してもらえないような仕組みになっていないため、そういう

	<p>ことができないかという意見も出ている。できるかどうかはこれからの検討になるが、文化財団のホームページを見れば、今日はこんなことがある、といったことが分かるというのではないかと思う。SNSを駆使されている委員にも、いろいろとご教授いただきたいと思う。</p>
委員	<p>ホームページを見に行くことはもちろん重要だが、逐一情報が入ってくるようなものが、今の時代は必要なのではないかと思う。</p>
事務局	<p>「偶然行ったところが良かった」ということや、「この情報をもっと知りたかった」という話いろいろな所で聞く。こうするといいのではないかというアイデアがあれば是非、教えていただきたい。</p>
委員	<p>パブリックコメントはたくさん来て本当に良かったと思う。</p> <p>気になったことがいくつかある。1つはアンケート。高知県民の世論調査の結果というものが資料3の9ページにある。この②に「文化芸術の振興について特に力を入れるべきものは何ですか」と書いてあるが、「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」という、非常に当然のことが上位に上がってきているということ、改めてどのようにこれからの5年間で考えていくのかが重要ではないかと思う。高知県はいろいろな県立文化施設を活用した様々な取組みを積極的に行っており、それもある程度定着し、今後も引き続き取り組んでいかなければならないところだと思うが、例えば「鑑賞・体験できる機会の充実」というものを求めているものが、どういう地理的分布で求められるのか？ということをお聞きしたい。</p> <p>県としては、県庁所在地がある高知市を中心に県立文化施設も集中しているが、そこに実際に行ける人は、むしろ限られていると思う。遠かったり、子どもだと親が連れていってくれないと行けない、ということがある。その高知県内で、こういった鑑賞の機会や、参加の機会のようなものに、どのような格差が生じているのかという視点も重要なのではないかと思う。それは、特に県レベルで考えていかなければいけないことなのではないかと思っており、その視点がこれまで無かったため、これからもう少し考えてもいいのではないかと思う。</p> <p>また、その後のビジョンを作って評価をする際に考えることかもしれないが、その際に県だけで全てをやろうと思ってもできない。そうなると、それぞれの市町村の役割というのはとても重要だと思う。</p> <p>ちなみに、高知県内の市町村で、文化振興計画のようなものを策定</p>

している市町村はどのぐらいあるのか、ということをお聞きしたい。ここまで充実していなくても、自分達の地域で取り組める課題を明確にし、それぞれの市町村と協力しながらやっていかないといけないと思う。それまでに、策定を支援するなど、あるいはその策定に気を付けていくようなことを県としてやってもいいのではないかと思う。これは文化財に対しても同じだと思う。

その市町村だからこそできることがあり、地域で文化や芸術を身近で体験してきたり、そのことを何か一緒にやる、やってもらうための方策を次の期では考えていく必要もあるのではないかと思う。

それとともに、市町村はそれぞれの担当者が少なく、1人の担当者が多くの業務を担っているため、できない部分があると思う。それぞれの市町村で、文化芸術や、文化財保存、研究などに関わっている人たちがとても重要な役割を担ってくると思うが、そういった人材がどのくらいいるのか、現状はどうなっているのかということが重要になると思う。

その関係性を構築しながら、皆で文化芸術を鑑賞体験できたり、あるいは高知のこういった文化を継承していくための取組目標を、もう少し掲げていいのではないかと思う。やれることはやってきているが、それが地域間格差なくできているのかというところにもう少し視野を広げていいのではないか。高知の文化をいろいろな意味で発信し、理解してもらおうということをやってきたが、今後は県史編さん事業もあるため、本当に県民に行き渡っているのかという部分の視点がもう少し欲しい。

方向性はこれでいいと思うので、どのように取り組んでいくのかということ、県だけでなく、アーツカウンシルと協力し合いながらできる仕組みづくりを、この5年間に掲げてみていいのではないかと思う。

事務局

県民世論調査の地理的分布について、統計担当課に確認しておく。地域間格差については、小林委員のおっしゃるとおり、県内各地で芸術祭のオープニングイベントを実施しているが、アーツカウンシルの職員も、高知市以外での文化芸術の普及に課題意識を持っている。そのため、高知市以外での発表の場、アーティストの方たちの発表の場をもう少し持てないかと、現在話し合いをしている。

	<p>また、市町村との連携については、文化財課で、文化財の保存活用計画について市町村と話し合いをしている。確かに県だけでは到底無理なことなので、協力してできるような仕組みづくりを考えたいと思う。</p>
委員	<p>他の自治体の話だが、やはり市町村は大変。県から何か言われると萎縮してしまう。例えば、それぞれの市町村で文化振興計画を作る際に、県の文化行政の担当者が委員に入り、協働して作るようなことを行っている地域もある。だが、県が市町村を指導するような立場だと、市町村の自主性等がマイナスに作用するような部分もあるため、対応の仕方が難しいところがある。しかし、そういったものが無いと市町村の文化行政を進めていくのは、非常に難しいと思う。もちろん県がいろいろなフェスティバルなどを実施し、巡回する場を提供するというのは、市町村との関係上とても意義があると思う。</p> <p>その辺の取組みを視野に入れていただき、県として、県の文化行政としてできることや、連携できること、アドバイスできること、知恵を出せること等いろいろできることがあると思う。そういうことをこのビジョンの中に入れられないものか、ということが私の要望。</p> <p>アーツカウンシルも1人だと、やはりできないと思う。例えば、誰かと協力したいと思った際に、その市町村の誰かと協力しやすい仕組みを作っておかないと、動きにくいと思う。良い仕組みを県として作っているのだとすると、それが円滑に動くための更なる仕組みづくりについて、少し考えて動いたらどうかと思う。</p>
事務局	<p>我々文化振興課は知事の部局に属するところであり、市町村の方は文化行政を主に教育委員会の方で担っているため、現状として、ほとんど市町村と繋がりが無いような実態がある。我々としても、文化芸術所轄の文化財団や、いろいろな関係団体との関わりがあるが、市町村とはほとんど関わりが無いということについては非常に課題意識を持っている。特に文化財課との連携について、市町村と関わりを持っていかなければならないという意識を正に持っていたところであり、そういった視点も含めて来年度以降、市町村との関わりを重点的に意識していきたいと思っている。</p>
委員	<p>恐らく市町村の教育委員会で担っている文化関係や文化財関係も、今後は知事部局の方に移ってくる可能性が高いと思う。実際他の地域</p>

	<p>ではそうなっている。今までの、教育委員会の中で動いていくというやり方で上手くいかなかった部分が見直されてきているところがある。県民や市民からすると、それが教育委員会であろうと、知事部局であろうと関係ない話。</p> <p>行政側の部局の問題で文化行政の状況が変わらないというのは残念に思うので、そこは課題意識を持ち、直ちにということではないが、課題を解決する方向性を見いだして欲しいと思う。</p>
委員	<p>これから県史の編さんが本格化してくる中で、資料の収集、保存というものに非常に重点が置かれてくると思うが、そのためにはやはり市町村の協力が必要不可欠であり、教育委員会だけではなく、地元の郷土史家やそういった方々の協力を得ないと資料の収集ができないということもあるため、そういった視点からもぜひ、市町村と連携して取り組んでほしいと思う。</p>
委員	<p>文化振興という意味で、ビジョンを引っ張っていくような取組みをひとつやってほしいと思う。</p> <p>1つは県史の編さんだが、もう1つはこの県の文化施設の役割。そこに市町村や民間ではできないようなビッグイベントや、大規模の取組みなどを行う仕組みが欲しいと思った。</p> <p>高知県の文化を底上げし、盛り上げるような取組ができる仕組み等を作って欲しいと思う。</p>
事務局	<p>企画展を行ったり、それぞれでイベントには取り組んでいるが、また違った取組ということか。具体的なイメージがあれば教えていただけないか。</p>
委員	<p>案としては、学芸員のコンペ。学芸員自身がこういう取組をしたいと言って、それを皆で審議して、採用する。</p> <p>あるいは、新進気鋭の学芸員がいたら、その人に思いきり仕事してもらったり等、そういった尖った部分、飛び出た部分があれば良いと思った。それが皆の刺激になり段々と活躍して行くのではないかと思う。</p>
事務局	<p>また、施設や文化財団と話をしてみたいと思う。</p>
<p>～令和4年度の取り組みについて～</p>	
委員	<p>1つ聞きたいが、この前、高知信金が始めたというアニメクリエイター聖地プロジェクトについて、あれはこの文化振興ビジョンとは全</p>

	く関わらず、県の別の部署が関わっているのか。
事務局	アニメのプロジェクトについては、産業振興推進部でプロジェクトを立ち上げ、庁内が横断的に関わっていくことになっている。プロジェクトの中に文化振興課とまんが王国土佐推進課が入っており、今後、様々な取組について検討していく予定。
委員	<p>来年の牧野植物園に向けては何かあるか。</p> <p>牧野植物園もだが、佐川町やいろいろ具体的に歴史的な発表もあるので、その辺を広く上手に、県民が勉強できるようなものをつくっていただきたいと思う。</p> <p>また、最後の「歴史人材の育成」というところで、来年度の段階だと、市町村等で資料を扱う等、そういったところの育成が中心になってくるかと思う。若手研究者の育成は20年など長いスパンの計画なので、それをどう育成していくのかというのは、例えば高知大学で、中世を専門としている先生がほとんどいなくなっているような状況の中で、どう育成していくのかということが重要ではないか。講座もいいが、例えば今後、研究環境、教育研究などをして、土佐の歴史を研究する研究者に対するインセンティブであったり、研究環境を整えるなど、本当に育成していくようなことが必要なのではないかと思う。</p>
事務局	<p>牧野植物園について現時点でまだ確認はしていないが、おそらくこうちミュージアムネットワークなどで、話し合いをするのではないかと思います。私たちとしても何かPRをしていけたらと思う。</p> <p>人材育成については県史編さん事業の大きな目的の中の1つでもあるので、共有をする。</p>
委員	<p>「文化芸術に触れる機会、拡充」というところで、今現在もいろいろな施設でアーティスト招致や、ワークショップなどを沢山行っていると思うが、最初に美術に触れる、芸術、文化に触れる機会として、参加しやすい形というものたくさんあると思う。</p> <p>1日だけであったり、1時間2時間で終わってしまうようなものがほとんどなので、興味を持った人がより知識を得るために、継続的に学べる場のようなものを県として考えてもいいのではないかと思う。人材育成の方もそうだが、そういった場がどこかに設けられるといいと思っている。</p> <p>ビジョンの内容について、美術や歴史、牧野や芸能など、かなり網</p>

	<p>羅的で、県民に展開というところはあまりないと思うので、進めていきたいと思う。</p> <p>やはり今の、課題としては情報へのアクセスや情報発信だと思う。</p> <p>SNSもTwitter、Facebook、InstagramさらにTik Tokなど、どんどん新しいツールができており、僕たちの世代は追いつかないというのが正直なところ。その辺をどう回していくかを考えなければいけない。</p> <p>今回、まとまった案をホームページに、どういったビジュアルで、公開していくのか、今後考えていくべきではないかと思っている。</p>
	<p>これとって具体的なことは無いが、それぞれの分野に興味を持った人が、1日限りの学校で習うことをシリーズ化し、通年で何回か分けて分散して学んでいくようなことがあればいい。</p> <p>また造形教室など、ああいったものを個人だけではなく大きい単位でできたらいいのではないかな。</p> <p>高知大学の芸術分野で学んでいる方が、より専門的な知識を学びたいとなった時に、興味を持った人が上層的にアクセスできる掲示板のようなものができたらいいと思う。</p>
委員	<p>今話に出たことはとても重要だと思っている。どこでもそうだが、県レベルだと楽しいことや面白いこと、最初の体験を提供することはするが、関心を持った人はそれをより深めていきたいと思う。</p> <p>しかし、そのやり方や、準備がされてないということはよく言われている。例えばどんな領域でもそうだが、文化芸術体験では、見てやってみたいと思い、最初のワークショップや初心者向けのことはやるけれども、さらにそれを高めていきたいとなると、先生に習いにいかなければならなかったりする。そういうことは個人事業主がやっていることなので、県などは関わり合いを持たないといった感じで切られたりする。ただ、本当に何かやろうと思っている人は、研究や調査もそうだが、より深くやっていきたいと思う訳であり、県が情報提供などをできるといいのではないかなと思う。</p> <p>ただ、いい医者を紹介してくださいと言われても、県としてはどの医者がいいということを紹介できないのと同じように、難しいと思うので、それこそ直接県ではないところが整備していき、情報収集をして発生していければいいのではないかなと思う。</p> <p>他県だが、子供たちに体験型の色々なことにトライさせて、興味は</p>

生まれているのにそこでプツッと終わってしまう、ここでどんどんやらせればもっと伸びるかも知れないし、より高まる所まで何か勉強できないかという問題点が指摘されているので、それも考えるといいと思う。

どのようにすれば、県が直接関与しなくてもやりとげられるような情報提供ができるかというところが重要だと感じた。

以上